

平成27年度職業能力開発論文コンクール審査講評

職業能力開発論文コンクール審査委員長

1. はじめに

平成27年度職業能力開発論文コンクールは、「職業能力開発に携わる方等によって作成された職業能力開発の実践等に係る論文のうち、優秀な論文を選定しその成果をたたえ、広く関係者等へ周知をすることによって職業能力開発関係者の意識の啓発を図り、職業能力開発の推進と向上に資すること」を目的として、厚生労働省、中央職業能力開発協会、(独)高年齢・障害・求職者雇用支援機構の共催により行われました。

2. 応募の状況

今回の応募論文数は58本で、その内訳は、都道府県立職業能力開発施設8本、民間7本、(独)高年齢・障害・求職者雇用支援機構立施設43本となりました。

分野別では、生産・機械分野10本、電気・電子・情報分野16本、建築分野10本、障害者分野9本、職業能力開発分野13本となり、幅広い分野で応募がありました。

3. 総評

職業能力開発の現状と課題を踏まえたさまざまな興味深い取り組み等が報告されました。テクニカルスキルだけでなく、チームワークの醸成、ヒューマンスキル、コンセプチュアルの向上を目指したトレーニングが増えていることも特徴的です。

その中でも今回厚生労働大臣賞特選に入選した論文「愛知障害者校における精神障害者等への支援強化策について」は、試行を中心とした取り組みの効果検証を行い課題を明らかにして、その対応を検討し今後の具体的な方向性を明らかにする、というPDCAに沿った内容となっており、校全体としてのシステム構築は同様の課題を抱える他の障害者校にとって非常に参考になると思われます。

今回入賞された論文、また惜しくも入賞を逃した論文の中にも大変評価できるものが数多くあり、全体的に論文としての完成度の高さがうかがえました。単なる個人の考えや思いの記述、専門分野の研究や実施例の報告にとどまらず、実際に新しい教材等を授業に展開し、その評価まで行なった論文が高評価となりました。

一方、変換ミスなどによる誤字・脱字、本文中の図表番号の食い違いなどの初歩的な誤りや、論文としての最低限の体裁(背景、目的、方法、結果、考察、結論、参考文献など)を整えていないものも散見されましたので、入賞された論文を参考にしていただければ幸いです。

今回受賞された方々はもちろんのこと、投稿いただいた皆様の取り組みと努力に

敬意を表したいと思います。今後も職業能力開発に携わる皆様によって、幅広く新しい取り組みやチャレンジが行われ、次回のコンクールにもその内容と成果が数多くの論文として投稿されることを期待して、講評とさせていただきます。